

令和7年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第三小学校

校長名 浅倉 宏之

公印

教育目標

- ◎よく考え やりぬく子 【問題解決能力】
- 思いやりのある 心豊かな子 【人間関係形成力】
- 進んで体をきたえ 健康な子 【実践力】

1 目指す特色ある学校像

子供も教師も自己実現を目指し、「学校大好き、友達大好き、先生大好き」を教育活動推進のテーマとして、学校・保護者・地域が協働して、心豊かな児童を育む学校。

- 安心・安全・快適な学校
- 所属職員が研鑽し合う学校
- コミュニティ・スクールとして、保護者・地域と連携協力する学校
- 伝統文化を大切にし、郷土愛を深める学校

2 学校経営の目標

(1) 中期的目標

①確かな学力の向上

学力調査の結果分析や児童の実態に基づいた授業改善を推進し、各教科等の基礎的・基本的な内容を確実に定着させ、思考力、判断力、表現力の育成を図る。

②豊かな心の育成

全教育活動を通して、児童自身の良さや価値に気付かせる取組を推進し、より良く生きていくための基礎となる自己肯定感・粘り強く学びに向かう力を高める。

③健やかな体の育成

健康の保持・増進と体力向上の取組を行い、進んで体を鍛え健康な児童を育成する。

(2) 本年度の目標

①ぐんぐん学力プロジェクト

ア 学級経営力の向上に努め、ユニバーサルデザインに基づいた学習環境の構築、学習規律の徹底を図り、学習への基本的な姿勢を確実に身に付けさせる。

イ 進んで自ら書に取り組む習慣を身に付けさせる。

ウ ALTを活用し、体験活動を重視した外国語(英語)の学習を展開するなど、英語に親しみながら聞く力・話す力の向上を目指す。

②わくわくふれあいプロジェクト

ア 学級活動の充実を図り、学校・学級の居心地の良さを向上させる。

イ 地域の伝統文化に根差した活動を取り入れ、地域とともに教育活動を推進する。

ウ 特別支援教育を必要とする児童の理解と具体的支援の充実を図る。

③いきいき元気プロジェクト

ア 「歯みがきタイム」などの日々の活動を通し、自身の健康に対する意識を高める。

イ 運動する楽しさを知り、進んで運動に親しむ意欲と、目標をもち挑戦する心を育てる。

ウ 教育活動全体を通して自己肯定感を育てる。

3 目標達成に向けての課題

- (1) 基礎学力と家庭学習習慣の定着。
- (2) 特別支援教育への理解。
- (3) 「主体的、対話的で深い学び」を実現するための授業改善。
- (4) ICT機器を効果的に活用し、確かな学力を定着させる授業改善。
- (5) 教員の学級経営力や児童理解に関する力のさらなる向上。

4 経営の具体策

(1) ぐんぐん学力プロジェクト

- ①ユニバーサルデザインに基づいた学習環境を整え、「ふっさっ子スタンダード」による授業規律の定着を図る指導をすべての授業、全学級で徹底する。
- ②高学年において、担任による指導教科の交換を行い、一部教科で学年内教科担任制とする。
- ③読書環境の整備、詩の暗唱、読み聞かせの充実等、本に親しむ活動を年間通して設定し、児童の読書習慣の質的向上を図るとともに、読解力、表現力、語彙力の向上を目指す。
- ④TGGの体験活動やALTと給食や清掃活動の時間を共有するなどして、児童が英語に触れる機会を多く設定し、生きた英語力を伸ばす英語学習の展開を図る。
- ⑤ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する。
- ⑥スタートカリキュラムを適切に展開した幼保と連携、義務教育9年間の連続性を考慮した中学校区の取組を充実させ、それぞれの接続で取りこぼさないような支援を推進する。

(2) わくわくふれあいプロジェクト

- ①各学期の初めにいじめ防止の授業を行い、道徳的判断力や望ましい人権感覚を醸成する。
- ②より良い学級集団を築くため学級会活動の活性化を図り、縦割り班活動やクラブ活動、委員会活動等での異年齢・異学年交流を充実させた特別活動の取組を展開する。
- ③伝統として伝わる和太鼓、藍染めを通じた地域との関わりを通して、愛校心やふるさと福生への誇りを培う。

(3) いきいき元気プロジェクト

- ①運動に親しむ態度を育て、体力の向上を図るために、持久走旬間や持久走大会、縄跳び週間の取組を行う。
- ②ハミガキ大会への参加や歯科衛生士によるブラッシング指導等を通し、歯科衛生の望ましい習慣と知識及び技能を身に付けるとともに、進んで自身の健康について考え、良い習慣を実践できる指導を、体育・保健教育において推進する。

(4) 人材育成

- ①各主任を中心としたリーダーシップとフォロワーシップの意義を指導する。
- ②学校でのあらゆることがOJTであることを意識させ、運営組織力向上を図るとともに、次世代のリーダーを育成していく。

(5) 家庭・地域

- ①学校支援コーディネーター、学校ボランティア等による教育活動支援の一層の充実を図る。
- ②コミュニティ・スクール委員会との連携をさらに強め、算数検定等の協働事業を推進する。

5 年度末のチェックポイント

- 学力学習状況調査における各教科での平均点が市の平均水準値以上
- 自己肯定感に関する肯定的回答（90%以上）
- 学校評価の肯定的な回答（85%以上）